

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：32618

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2015

課題番号：24652049

研究課題名(和文)近代趣味家の蒐集資料を文化資源として古典研究に応用するための包括的な基礎研究

研究課題名(英文)Basic research by materials modern hobbyists were collected

研究代表者

牧野 和夫(MAKINO, KAZUO)

実践女子大学・文学部・教授

研究者番号：70123081

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代における趣味家の活動が、多方面な領域に与えた影響を包括的に量ろうとする基礎的な研究である。具体的には、従来、学問的に見過ごされてきた文書・印刷物を収集し、諸領域の趣味家との緊密な連関を確認すべく包括的な試掘を試み、趣味家の双方向への影響関係を解明することができた。この独創性を広く学会に公表すべく、研究代表者牧野は関連する学会・研究会などに積極的に参加し発表を行った(サントリー文化財団研究助成プロジェクト第2回国際シンポジウム テーマ「東アジアにおける大衆的画像の視覚文化論」 「研究史の交点について 庭つづきの 学問領域」2014・12・27 於同志社大学)。

研究成果の概要(英文)：The activity of hobbyists in Modern Japan (taisyo) had a great impact on many fields of area. By this study, I was able to evaluate the impact comprehensively. The originality of this study is a basic study centering on the modern hobbyists of collection materials which has been overlooked conventionally (picture postcard collection & Toys collection). This novel research viewpoint is that the history of exchange between hobbyists in Modern Japan (taisyo) was not only a flow in a single direction, but that it operated in a bidirectional manner between the many fields of area. Kazuo Makino, the study representative announced the result positively in associated societies (Suntory Foundation research grant project 2nd International Symposium <theme: "The masses specific iconography in East Asia visual culture theory "> 2014, 12, 27 at Doshisha University).

研究分野：日本文学

キーワード：趣味家 集古会 書誌学 蔵書家

1. 研究開始当初の背景

明治・大正期に流行した〔趣味〕の問題が、「流行」をテコにした大量消費時代の到来と連動しつつ、明治期のアール・ヌーヴォーや大正モダニズムなどの概念とも無縁ではなかったことは、既に指摘されているが、近代における趣味家の活動が具体的に挿絵・装訂、さらには古典資料の収集の領域に果たした役割の重要性は、留意されてこなかった。趣味家の研究は基本的に学問的な研究領域から外されてきた。従って近代における趣味家の活動が、多方面な領域に与えた影響を包括的に量ろうとする研究は、文学研究の側からは殆どないといつてよい。企画展示としては、「収集家100年の軌跡」(国立歴史民俗博物館)が1998年に開催され、大津市歴史博物館の企画展「道楽絵はがき」(2009年)などに引きつがれるが、「歴史人類学」の方面より1995年に『「挫折」の昭和史』『「敗者」の精神史』が刊行され、『内田魯庵山脈』に結実する山口昌男氏の著作群がもたらされて初めて、大正・昭和前期頃の「趣味家」が掘り起こされたのであり、林若樹などの趣味家の集まり「集古会」などの活動に近代という視点からようやく光が当りつつある。一方で近代をさかのぼり、特に牧野が専門とする中世文化(文学)との連続性の検証に趣味家を視野に入れた研究は、極めて少ない。本研究を萌芽的挑戦として位置づけ研究に着手した背景には、この両者の研究が相互に支え合う関係性の中から近代の趣味家の全貌へ迫ろうとする、ほぼ先行研究のない領域が広がっていたからである。

2. 研究の目的

本研究は、近代における趣味家の活動が、多方面な領域に与えた影響を包括的に量ろうとする研究であり、その根本的な基礎研究である点に特色がある。この特色を活かすべく、つとめて蒐集(とくに“紙もの”

を対象とする)を軸にした活動に注力し、その成果を基に、諸領域(絵葉書蒐集・玩具蒐集ほか、中世関連で言えば蔵書家)の趣味家との緊密な連関を確認すべく、包括的な試掘を試みることを目的とする。

特に大正・昭和前期には林若樹などの趣味家の集まり「集古会」の活動がもたらしたものは波及するところの広く深いものがあり、「集古会」を軸に展開する諸領域の研究が必須である。

3. 研究の方法

本研究は、資料収集・調査と関連する国内・国際シンポジウム並びに研究会(共催・後援を含む)の二つが相互に機能することによって成り立つものである。

- (1) 研究代表者(研究協力者・補助も随時加わる)が原則として調査を行う。その調査内容を検討し調査の進行状況について、調査後に研究会を催し積極的に報告する。
- (2) 同時に研究代表者(研究協力者・補助も随時加わる)は、研究目的に即応した研究テーマである「集古会」関連資料を翻刻し、できる限り公刊する。
- (3) (1)(2)で得られた成果を年一、二回程度関連する対外的に開かれた学会・研究会において報告を行う。

4. 研究成果

以下に研究の成果を記す。四つの方面に区分して記述するが、元来、相互に係わりのあるものであることを附記しておく。

- (1) 「集古会」関連資料については、家蔵の合計40数冊の林若樹の日記・備忘録(一部集古会々員岡田村雄の備忘録を含む)の輪読会を行い、整理を終えた大正三年分の日記などを翻刻紹介した。この日記には多くの新知見が含まれ、その活用は今後の補充調査などを俟って展開可能なものが少なくない。具体的内容として例えば、西国立

志編の彫師名や島田蕃根の逸話などである。紙資料類（貼り交ぜ帖など）の整理も進めたが、その意義・重要性については、新しい事実関係などに及ぶものであり、一端は既に口頭発表で示した。

伊勢神宮文庫へ蔵書を献納した初期集古会々員江藤正澄を始めとした集古会会員と中世典籍類の蒐集・継承についての追跡調査は、九州方面の研究協力者との連絡・打ち合わせを行ったが、着手には及ばなかった。

(2) 集古会会員及びその周辺の趣味家の絵葉書類や貼り交ぜ帖などの整理・分析を進めた。趣味家竹清宛絵葉書類や水落露石製作貼り交ぜ帖などに、新たに入手した初期集古会会員澤塵外手製貼り込み帖や集古会会員広瀬辰五郎宛紙もの類の貼り込み帖について整理、分析を加えた。更に、高楠順次郎収集の古版経などの写真貼り込み帖（三村竹清作成）や山内神斧製作古版・古写本断簡貼り込み帖の整理を行った。早稲田大学演劇博物館所蔵の展覧「新耽奇会」を閲覧、新たに三村竹清関連資料類との連関（観無極会資料）を考えてみる機会を得たのは収穫であった。日出新聞記者と文藝倶楽部編集部とを緊密に結び進展した「内国勸業博覧会と旅行」の特集などについて、趣味家竹清宛絵葉書類や水落露石製作貼り交ぜ帖などで検証した。

(3) 中世文学（文化）との連続性の検証として、文学史用語の生成に関する資料を継続して蒐集補充し、論文を公刊した。具体的には、中世文学史・美術史の学術用語である「奈良絵本」の関連資料収集につとめた。その過程で集古会会員巖谷小波を介して京都日日新聞と集古会との関係も明瞭となった。とくに集古会と緊密な関係にあった京都の月曜会の有力会員のひとり谷村太一郎氏の蔵書（谷村文庫）のうち、中世の仏書類（宋版大蔵経、高山寺旧蔵書など）

の他に、貼り込み帖数点の調査・資料収集に赴き、検討材料を得ることができたのは、収穫であった。

(4) その他、諸機関・諸文庫の所蔵する関連資料の調査は、随時、行った。具体的には福島県立近代美術館蔵の山内神斧資料の閲覧を許され、整理研究を担当する研究者から現状について報告を得た上で、数名の研究者を交えた資料調査・情報交換を行った。神斧と関西の集古会会員との極めて親密な交流が明瞭になった。また、奈良県下の図書館・資料館などで、水木要太郎とその周辺資料を収集した。竹清家訪問者の芳名帳に屢々記帳した岸田劉生が係わった大阪の美術商をめぐる絵葉書資料などは既収のものであるが、今年度の調査で同じ美術商宛の小出楢重などの絵葉書類の存在を確認した。また、趣味家グループに属して着物デザインに係わった日本画家の資料にも若干及ぶものが蒐集できた。このように、大正・昭和前期の趣味家をめぐる〔紙もの〕資料に関して、とくに近現代の蔵書家でもあった人々にも対象をひろげ、調査を行った。諸領域（絵葉書蒐集・玩具蒐集ほか）の趣味家との緊密な連関を確認すべく、包括的な試掘を試みる準備が整った、と考える。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計5件)

牧野和夫 趣味家の交点 『蒐印帖』・『盟志はりこみ帖』から木村捨三・川西英・大野麦風 『実践女子大学文学部紀要』58集 査読無 2016 P1~18

牧野和夫 中世文学史の一隅 遁世僧の嘗為の痕跡を辿る〔旧稿の補遺を兼ねて〕

『実践国文学』89 査読有 2016 P29~49

牧野和夫 中世文学〔美術〕史用語の生成・
定着と内国勸業博覧会 『実践国文学』8
7 査読有 2015 P17~38

牧野和夫 林若樹日記・大正三年(下) 『実
践女子大学文学部紀要』56集 査読無
2014 P1~13

牧野和夫 林若樹日記・大正三年(上) 『実
践女子大学文学部紀要』55集 査読無
2013 P1~26

〔学会発表〕(計3件)

牧野和夫 福州版大蔵経の一、二の問題
国際シンポジウム「人類共有の資産とし
ての東アジア文史哲」2015年12月12日 東
国大学(韓国ソウル市)

牧野和夫 研究史の交点 庭続きの「学問
領域」 サントリー文化財団研究助成
プロジェクト第二回国際シンポジウム
2014年12月27日 同志社大学(京都府
京都市)

牧野和夫 奈良絵という言葉と奈良扇
奈良絵本・絵巻国際会議神奈川大会 2012
年8月18日 慶応義塾大学日吉校舎(神
奈川県横浜市)

〔図書〕(計1件)

牧野和夫 勉誠出版 『中世寺社の空間・
テキスト・技芸』(アジア遊学)「鎌倉前期
中期の寺院における出版 その背景と遞蔵
過程の一、二の事実」2014 P16
9~184

6. 研究組織

(1) 研究代表者

牧野和夫(MAKINO KAZUO)
実践女子大学・文学部・教授
研究者番号:70123081